防災対策調査特別委員会　会議記録

1	期日	令和８年４月14日（火） 午前９時25分　開会 午前10時16分　閉会
2	場所	第３委員会室
3	出席委員	委員長　義本　みどり 副委員長　中尾　浩二 委員　石田　清、岡本　昭治、 北原　大策、清水　寛、 米田　達也
4	欠席委員	なし
5	説明員	（別紙のとおり）
6	傍聴議員	なし
7	事務局職員	主幹兼総務係長　舩越　初美
8	会議に付した事件	（別紙のとおり）

防災対策調査特別委員長　　義本　みどり

防災対策調査特別委員会　次第

日　時：2026 年４月 14 日（火）９：30～
場　所：第３委員会室

１　開　　会

２　委員長あいさつ

３　自己紹介
　４月１日付け人事異動
　議員（正副委員長、各委員）　→　当局　→　事務局

４　協議事項
⑴　委員会所管事項の事務概要について
　○危機管理部　危機管理課
　○都市整備部　建設課

⑵　管外行政視察研修について

⑶　その他

５　閉　　会

防災対策調査特別委員会名簿

＝出席不要もしくは欠席

【委　　員】

職　　名	氏　　名
委　員　長	義　本　みどり
副 委 員 長	中　尾　浩　二
委　　員	石　田　　清
委　　員	岡　本　昭　治
委　　員	北　原　大　策
委　　員	清　水　　寛
委　　員	米　田　達　也

7名

【当　　局】

職　　名	氏　名	職　　名	氏　名
危機管理部長	原田　泰三	危機管理課長	松岡　久雄
		危機管理課参事兼防災支援室長	山内　真弘
健康福祉部長	小野　弘順	健康増進課長	宮野　千晶
		健康増進課参事兼保健センター所長	澤口久美子
コウノトリ共生部長	村田　一紀	農業政策課長	村田　光弘
		林務水産課長	西村　文紀
		林務水産課参事	武中　孝寛
都市整備部長	冨森　靖彦	都市整備部次長兼建設課長	久田　　渉
		建設課参事	谷口　浩二
		建設課参事	和田　征之
城崎振興局長	冨岡　　隆	地域振興課長	福井　孝道
竹野振興局長	吉村　容子	地域振興課長	小林　昌弘
日高振興局長	山口　繁樹	地域振興課参事	徳味　卓示
出石振興局長	木之瀬晋弥	地域振興課長	武縄　真明
但東振興局長	井上　靖彦	地域振興課参事	木下　喜晴
上下水道部長	谷垣　康広	下水道課長	野畑　修身
		下水道課参事	羽渕　浩史
消防長	中地　　修	本部参事	吉谷　正彦
		本部参事	木下　卓巳

30名

【議会事務局】

職　　名	氏　名
主幹兼総務係長	舩越　初美

別紙１

＜参考＞

2025 年度（後期）防災対策調査特別委員会の重点調査事項

１　本庁・振興局の防災体制ならびに庁内事業継続計画（ＢＣＰ）について

２　自主防災組織について

３　市民（子どもを含む）防災意識の向上について

４　内水処理対策について

５　河川・土砂災害対策（円山川緊急治水対策、危険度判定システム等）について

６　地震・津波対策について

７　高潮対策について

８　原子力事故災害対策について

９　雪害対策について

10　感染症対策等について

午前９時２５分開会

○委員長（義本みどり）　定刻前ですけれども、皆さんおそろいですので、ただいまから防災対策調査特別委員会を開会いたします。

それでは、委員長挨拶。

皆さん、おはようございます。空気が乾燥してて、連日火災もとても気になるところですけれども、まずは自分の防災意識を高めることが大切かなと思いまして、先日感震ブレーカーというのを取り付けました。今、私の悩みは、大型の三面鏡、これが倒れたときにガラス、鏡が割れて飛散するんで、どういうフィルムを貼ったらええかなと日々ちょっと悩んでるところであります。まず身近なところから防災意識を高めて、市民全員の防災意識が高まっていけばいいかなと思います。今日はよろしくお願いいたします。

それでは、協議に入りますまでに自己紹介です。

今回は年度当初の委員会ですので、人事異動で防災対策調査特別委員会所管の当局職員に異動がありましたので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をお願いいたします。

まずは委員から。

改めまして、委員長の義本みどりです。よろしくお願いいたします。

○委員（中尾　浩二）　おはようございます。副委員長の中尾浩二です。よろしくお願いします。

○委員（岡本　昭治）　おはようございます。委員の岡本昭治です。よろしくお願いいたします。

○委員（米田　達也）　おはようございます。委員の米田です。よろしくお願いします。

○委員（清水　　寛）　委員の清水です。よろしくお願いします。

○委員（石田　　清）　委員の石田です。よろしくお願いします。

○委員（北原　大策）　おはようございます。委員の北原大策です。よろしくお願いいたします。

○委員長（義本みどり）　次に、危機管理部から名簿に記載された順でお願いいたします。

○危機管理部長（原田　泰三）　おはようございます。５年ぶりにこちらのほうに戻ってまいりました。危機管理部長の原田泰三です。よろしくお願いいたします。

○危機管理課長（松岡　久雄）　おはようございます。危機管理課長の松岡です。２年目です。よろしくお願いします。

○危機管理課参事（山内　真弘）　おはようございます。４月の異動で危機管理課参事を拝命いたしました山内と申します。よろしくお願いいたします。

○健康福祉部長（小野　弘順）　おはようございます。健康福祉部長の小野です。どうぞよろしくお願いします。

○健康増進課長（宮野　千晶）　おはようございます。健康増進課長の宮野です。よろしくお願いいたします。

○健康増進課参事（澤口久美子）　おはようございます。健康増進課参事の澤口です。よろしくお願いします。

○コウノトリ共生部長（村田　一紀）　おはようございます。４月の異動でコウノトリ共生部長になりました村田です。よろしくお願いします。

○農業政策課長（村田　光弘）　おはようございます。今年から農業政策課と変わりまして、課長の村田です。同じ名前なんですけども、大きいほうでよろしくお願いします。

○林務水産課長（西村　文紀）　おはようございます。この４月から新設されました林務水産課の課長させていただきます西村です。当委員会は引き続きになります。よろしくお願いいたします。

○林務水産課参事（武中　孝寛）　おはようございます。４月から林務水産課参事として参りました武中といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

○都市整備部長（冨森　靖彦）　都市整備部長、冨森です。どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

○都市整備部次長（久田　　渉）　次長兼建設課長の久田でございます。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（谷口　浩二）　おはようございます。建設課参事、谷口です。２年目です。引き続きよろ

しくお願いいたします。

○建設課参事（和田　征之）　おはようございます。建設課参事の和田です。よろしくお願いします。

○城崎振興局長（冨岡　　隆）　おはようございます。城崎振興局長の冨岡と申します。３年目になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課長（福井　孝道）　おはようございます。城崎振興局地域振興課長の福井です。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹野振興局長（吉村　容子）　おはようございます。竹野振興局長の吉村と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課長（小林　昌弘）　おはようございます。竹野振興局地域振興課長の小林です。引き続きよろしくお願いします。

○日高振興局長（山口　繁樹）　おはようございます。この４月から日高振興局長となりました山口です。よろしくお願いします。

○日高振興局地域振興課参事（徳味　卓示）　おはようございます。この４月からこちらのほうにお世話になります日高、地域振興課参事、徳味と申します。よろしくお願いします。

○出石振興局長（木之瀬晋弥）　おはようございます。出石振興局長の木之瀬でございます。２年目です。引き続きよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課長（武縄　真明）　おはようございます。４月からお世話になります出石振興局地域振興課長の武縄と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局長（井上　靖彦）　おはようございます。但東振興局長の井上です。引き続きよろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（木下　喜晴）　おはようございます。但東振興局地域振興課参事の木下と申します。引き続きよろしくお願いします。

○上下水道部長（谷垣　康広）　おはようございます。上下水道部長、谷垣です。引き続きよろしくお願いします。

○下水道課長（野畑　修身）　おはようございます。下水道課課長の野畑です。よろしくお願いします。

○下水道課参事（羽渕　浩史）　おはようございます。下水道課参事の羽渕です。引き続きよろしくお願いします。

○消防長（中地　　修）　おはようございます。４月に消防長を拝命しました中地と申します。よろしくお願いいたします。

○消防本部参事（吉谷　正彦）　おはようございます。４月より消防本部参事としてお世話になります。よろしくお願いいたします。

○消防本部参事（木下　卓巳）　４月からお世話になります消防本部参事、木下です。よろしくお願いします。

○委員長（義本みどり）　事務局、お願いします。

○事務局主幹（舩越　初美）　事務局の舩越です。よろしくお願いします。

○委員長（義本みどり）　紹介は終わりました。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが、協議事項に入らせていただきます。

現在委員会の会議録は市議会のホームページで公開しております。委員会での発言は委員長の指名の後、マイクを使用して発言者名を名のってから行っていただきますよう、ご協力お願いいたします。

また、金額や年月日などの言い間違い、個人情報や未確定事項などについて不適切な発言がないように慎重を期してください。

それでは、説明資料のほうが２０２６０４事務概要０５でお願いいたします。

それでは、１番、委員会所管事項の事務概要について、別途資料として、本日２０２６年度豊岡市事務概要をタブレットのほうに掲載しております。事務概要書に基づき、当局から一通りの説明を受けた後、各委員から質疑等をお願いいたします。

次第に記載の危機管理部、都市整備部の順で説明をお願いしたいと思います。

それでは、危機管理部危機管理課からお願いいたします。

松岡課長。

○危機管理課長（松岡　久雄）　それでは、３ページ

をお開きください。危機管理課といたしましては、防災対策の推進としております。

まず、現況と課題です。全国各地においては、台風、豪雨、地震、大規模な山火事等による災害が発生しており、本市では近年、大災害はないものの、毎年自然の脅威にさらされており、災害に備える準備が必要であると考えております。

災害から市民が命を守るためには、配布してる防災マップや津波ハザードマップで市民自らが地域の災害リスクを知り、早く安全に避難できるよう、防災リュックなどの事前準備が重要であると考えております。

２０２４年１月１日に発生しました能登半島地震では、物資や指定避難所でのトイレなどの様々な問題や課題が顕在化しました。本市においても、市民一人一人の課題意識の向上を図ることや中長期化する災害対応への市防災体制の在り方を研究する必要があると考えております。

基本方針としましては、市民が災害リスクを知り、避難行動を実施するためには、自分たちが住む地域で実施する防災訓練や防災出前講座、防災学習会などを実施することが効果的であり、地域の防災力の強化につながっていくと考えております。これらの取組を地区の災害リスクに応じて実施し、自助、共助の観点に対して市民一人一人の意識啓発の向上を図っていきます。

また、本市としまして、災害対応の中長期化を見込んだ受援体制、防災ＤＸの活用などの持続可能な市防災体制を再構築できるよう研究していくこととします。

概要です。まず市民の訓練についてです。１つ目ですが、台風２３号メモリアル水防訓練です。現時点では、６月の１４日の日曜日の実施を予定しております。豊岡消防団と国、県、そして入庁３年目までの本市の行政職員、区の自主防災組織の方々が参加し、連携して訓練を実施するものです。土のうの作成や土のう積み訓練など、水防技術と水防意識や知識の向上を図っていきます。

次に、２つ目です。全国瞬時警報システムによる地震安全確保行動訓練を実施します。今年度は６月１７日水曜日と１１月５日木曜日に実施する予定としております。

次に、３つ目ですが、８月最後の日曜日の３０日に豊岡市市民総参加訓練を実施いたします。今年度は風水害を想定した訓練といたします。

４つ目ですが、これも１１月５日木曜日、日本海沿岸地域地震を想定した訓練としまして、兵庫県津波一斉避難訓練を実施いたします。

次に、地域防災力の向上についてです。１つ目ですが、防災ワークショップの実施についてです。対象地区は現時点では未定で、２地区を対象に実施する予定としております。昨年度は１地区のみの実施となりましたが、昨年度実施した神美地区では、昨年度末に地域防災活動の手引きが完成し、今年度からこの手引きを基にした地域独自の訓練などを実施されていく予定としており、市としましても伴走支援をしていきたいと考えております。

２つ目ですが、防災出前講座についてです。今年度も随時、実施していくこととしております。昨年度から始めた防災リュックを考えるなどの全７メニューで実施していきますが、それ以外にも、例えば勉強会的なものなど、地区や地域の要請に極力応えていけるようにしていきたいと考えております。

３つ目ですが、自主防災組織資機材整備に係る補助金です。市では自主防災組織等の育成及び強化を図るため、防災資機材の整備に対して補助金を交付しております。各区へは４月の区長便で周知する予定としております。

次に、防災啓発事業についてです。１つ目ですが、北但大震災メモリアル写真展です。今年度も５月の１４日木曜日から２７日水曜日にかけて、図書館本館で写真展を実施いたします。

２つ目です。台風２３号メモリアル事業、防災学習会です。現時点で日程は未定ですが、予定としましては、１０月頃に開催していきたいと考えております。昨年は１１月１０日にアイティ７階の市民プラザで実施し、約１３０人が参加しました。災害情報学などを専門とする東京大学大学院の片田敏孝

特任教授による基調講演をはじめ、災害対応に従事した方や当時小学５年生で災害を経験した方、また流域治水の取組を発信する流域治水アンバサダーをパネリストとして、多様な目線でパネルディスカッションを行いました。

最後に、市職員の災害対応の研究及び訓練についてです。１つ目としましては、今年度危機管理課内に防災支援室を設置しました。近年の大規模災害の発生を受けて物資のプッシュ型支援や市内外からの受援を前提とした配備体制など、長期の復旧復興に対応できる体制を再構築していく必要があり、地域も一体となった地域防災の運営体制など、防災体制の見直し業務を進めていきます。

２つ目として、大雨洪水対応訓練の実施についてです。災害リスクが高まる出水期に備えまして、２０２６年度豊岡市災害対策本部の各部で大雨洪水訓練を実施することで新体制での防災体制を確立させることを目的に、例年５月の最終土曜日に実施しております。４月の人事異動により新たに配属となった職員や新任職員もいることから、災害対策本部各部の運営要領及び業務確認、職員自身の初動、役割及び行動を確認するなど、組織及び職員の風水害に備える内容としております。

危機管理課からは以上です。

○委員長（義本みどり）　次に、都市整備部建設課、お願いします。

久田次長。

○都市整備部次長（久田　　渉）　資料４ページのほうご覧ください。雪害対策事業の推進について説明をいたします。

まず、現況と課題についてです。冬季における交通確保では、車道約６３０キロ、歩道約１１５キロ、合計しますと７４５キロの市道等を１９２台の除雪の車両により作業を行っております。

課題としましては、除雪機械等の老朽化が進んでいく中で受託者所有、業者さんの機械の更新が進まない状況であるとともに、作業員の高齢化により業者の確保が困難な状況になりつつあります。

それから、次に、概要についてですが、まず１つ目の除雪対策としましては、（１）の除雪機械の更新になります。こちらにつきましては、予算額２，０４５万円で、除雪のドーザー並びに小型のハンドガイド、この２台を購入しまして、城崎地域、豊岡地域に配備をいたします。

それから、（２）の消雪施設の更新等でございます。消雪装置点検時に問題があった施設を対象に修繕を実施するもので、施設の更新に必要な予算として５，８９０万円を計上しております。内訳となりますが、まず、アの竹野地区の消雪ポンプの更新から５つ下のオの小田井寿上陰線の消雪の散水管の更新まで、ここに記載をしております５件の更新や修繕工事を実施する予定としております。

次に、（３）の補助金になりますが、こちらには１，５００万円を予算計上しております。内容としては例年どおりにはなりますが、まず、アの豊岡市の除雪機整備事業補助金に１，１００万円を予算化しており、購入する除雪機につきましてその購入経費の一部を補助するもので、除雪機１台につきまして対象経費の３分の２以内で補助します。上限額は、したがいまして、１５０万円となります。昨年２０２５年度の申請件数は６件となっております。

それから、次のイの除雪機械運転資格取得事業補助金に４００万円を予算化しており、こちらにつきましては、昨年度に引き続き補助対象経費につきましては、大型特殊免許及び大型自動車運転免許の取得費用並びに車両系建設機械運転技能講習の受講費用になります。補助率は３分の１、上限２０万円としております。負担割合につきましては、県の随伴補助ということもありますので、兵庫県、豊岡市、それから事業者それぞれが１対１対１となってます。昨年度２０２５年の申請件数は５件となっております。

それから、次に、６ページをご覧ください。円山川水系河川整備事業の推進についてご説明をいたします。

まず、こちらにつきましても現況と課題についてですが、２０１３年（平成２５年度）から円山川水系河川整備計画を基に、河川整備事業が実施をされ

ております。

２０２６年度（令和８年度）からは、第１次国土強靱化実施中期計画を踏まえた予算を活用し、早期完成に向けて整備を加速し、進めているところです。

治水安全向上のため、国と県及び市が緊密な連携の下に、今後も住民の意見を尊重しながら、積極的な事業の推進を図ることが必要であると考えております。

概要に移ります。まず、１つ目の円山川水系河川整備計画につきましては、（１）の下流部の無堤対策として、アの瀬戸・津居山地区につきましては、漁業関係者や地元役員への説明会を継続して実施をされております。工事実施につきましては、まずは上流から実施をされているということから、現在のところこの地域につきまして、工事につきましては未定とお聞きをしております。

次に、イのひのそ地区では、地元調整、特殊堤の整備、道路のかさ上げ、結和橋のアプローチ橋の下部工が実施されるとお聞きをしております。

次、（２）の遊水地整備のア、中郷地区の下池では、囲繞堤のほか、遊水地内の掘削、樋門整備をされるとお聞きをしております。また、上池につきましても、同じく囲繞堤のほか、遊水地内の掘削を実施されるとお聞きをしてございます。

次、（３）になります、上流部の無堤対策のアの日置地区では、用地のほうは一定片づいております。堤防整備及び道路整備を実施されます。

次に、７ページに移ります。引き続きですが、イの鶴岡地区になります。こちらにつきましても、用地取得、それから堤防整備、樋門整備が実施されます。

それから、ウの日高地区、いわゆる江原墓地になりますが、暫定堤防が完成しておりますが、引き続き地元調整が必要であり、実施されるとお聞きをしております。

次に、（４）の堤防強化整備では、大磯地区において左岸側堤防強化が実施をされます。

それから、大きい項目２の要望活動ですが、こちらにつきましても、毎年のこととはなりますが、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会で国土交通省、財務省に要望を予定しております。必要に応じまして、随時、要望活動は実施をしてございます。

以上、建設課の説明を終わります。

○委員長（義本みどり）　説明は終わりました。

質問等はございませんか。

清水委員。

○委員（清水　　寛）　すみません。１点というか、２点お聞きしたいです。

危機管理課のほうにお尋ねするんですが、実は昨日、建設経済委員会がありまして、その中で豊岡市の耐震化率が大変低いというようなお話がありました。それは引き続き建築住宅のほうで進めていくというようなことがあったんですけども、その辺やはり危機管理課としてもしっかりとやっていく必要があるのかなと思いまして、その点についてお聞きしたいのと、もう一つは、住宅もさることながら、公民館などの耐震化というのが実は、そこも質問があったんですけども、把握をしていないというようなことでした。先ほどのお話では、地区の災害リスクであったり、中長期の受援体制をしていく中で公民館ってすごく重要な拠点になると思うんですけども、そこの耐震化をしっかりと見ていく必要というのもあるのかなと思うんですが、その２点についてお答えいただきたいと思います。

○委員長（義本みどり）　松岡課長。

○危機管理課長（松岡　久雄）　今、耐震化率の話が出てきてますけども、そのハード的な部分については、建築住宅課が中心になっていきますが、現状共有はさせていただいております。ただ、先ほど、避難の拠点の一つとなる、例えばコミュニティセンターの在り方について、今ある施設とか、あるいは地域の防災リスクとか、そういったものを極力分かりやすく、市民にお伝えをして意識を高めていただき、その現状ありきでどう、例えば避難をしていくかとか、あるいは災害があった後にどのような避難生活していくかっていうことを啓発していくという立場でありますので、危機管理課としまして、例えばそのハード的に事業費をかけてやるとかいうこと

は考えておりません。以上です。

○委員長（義本みどり）　清水委員。

○委員（清水　　寛）　昨日も建築住宅のほうでなかなか進められないというようなお話の中、しっかり取り組んでいくということもあったんですけども、いろいろなチャンネルを使いながら多分周知をしていかないといけないのかなと思います。特に今、熊本地震の関係で、今日も報道たくさんあったんですけども、自宅が残っていれば避難所でなくても自宅で暮らしていけるわけですし、そういう意味では全ての人が被災したから避難所ということではなくて、やはり生活が維持できる拠点をしっかりと維持するっていうことも防災対策の非常に大きな観点だと思います。そういう意味では市のほうで持ってる制度を、やはり建築住宅だけではなくて、様々な機会で危機管理のほうからもＰＲする必要があると思いますし、また各公民館の耐震など、これも皆さん、少しずつ思ってるんですけども、やはり先立つものがないと動けないということもあります。そういう部分で改めて防災というような立場から何か手だてを考えるっていうことも必要かと思うんですけど、その点について再度お答えいただけたらと思います。

○委員長（義本みどり）　危機管理部、原田部長。

○危機管理部長（原田　泰三）　今、清水委員がおっしゃられました内容について、出前講座などで我々の課も出向いていくんですけど、そこの会館が例えば老朽化してるとか、すごく浸水リスクが高いとかっていうところを啓発することによって知っていただく。そこを避難所にしますとかっていってよく言われる区があるんですけども、私の小田井区もそうです、実は高齢者の方がいっときちょっと不安だから夜を過ごすのに来ていただくにはいいんですけども、やっぱりここを避難所として避難するということは市としても言えない。なぜかというと、浸水リスクが非常に高いとこであるからというようなことですので、そういったことを、先ほども松岡課長も言いましたけども、周知徹底していく中で、一つには、そういったコミュニティセンターなども長期化するときの避難所になり得る、安全であれば、残っていればなり得る施設ですので、そういったところにもそういった助成の制度があるんだよとか、そういったことも周知しながら、例えば家具の転倒防止の対策しとかないと駄目だよとか、ここをいっとき避難場所にするのはこういう理由があるから駄目なんだよということで、我々の立場でいろいろとそういう周知啓発を図っていくことによって、住民の皆さん方がそういった地域の災害リスクを知っていただくということにつながるのではないかなと思ってございます。以上です。

○委員長（義本みどり）　清水委員。

○委員（清水　　寛）　なかなかこの取組の、先ほどの事業概要の中には文字としては含まれてない内容なんですけども、せっかく市の中でやってる取組でもありますから、横の連携をしっかりしていただいて進めていただけたらと思います。以上です。

○委員長（義本みどり）　ほかにございませんか。

米田委員。

○委員（米田　達也）　いいですか、お先でも。

○委員（北原　大策）　どうぞどうぞ。

○委員（米田　達也）　すみません。地域防災力の向上っていうところで１点。

昨年、防災士の……。ちょっと正式名称、ごめんなさい、防災士の養成講座でしたっけ、防災士の……（「防災リーダー」と呼ぶ者あり）防災リーダー養成、何かあれが何年かに１回、豊岡で受けれる機会があって、定員を超える応募があったっていうふうに去年聞いてたんですけど、そういう需要があるとき、防災意識の向上っていうとこで需要があるときに、数年に一度っていうものが頻度をもう少し上げて豊岡で開催することができたりしないもんだろうかっていうのがちょっと思ってるところがありまして、その点可能なのか、あるいはそれは県のほうとかで決まってるものなのか教えていただけたらなと思います。

○委員長（義本みどり）　危機管理課、松岡課長。

○危機管理課長（松岡　久雄）　今おっしゃられました防災リーダーの養成講座の話ですけども、主催は

県でやられています。需要があるということで、できれば毎年度開催してほしいとかっていう要望は、話をしていきたいと思いますが、それを市独自でやれないのかということになりますと、今の危機管理課の体制では全くマンパワーがありませんので、それはできません。以上です。

○委員（米田　達也）　オーケーです。

○委員長（義本みどり）　いいですか。ほかにございませんか。

北原委員。

○委員（北原　大策）　２点伺いたいです。

まず１点目なんですけど、ここにおられる皆さんにちょっとお聞きしたいんです、私も含めてなんですけど。いろいろとこの危機管理の部分で防災マップとか、あと避難所の設置ってそれぞれの地区でされてると思うんですけど、ご自身とご家族を含めて避難所に、この場合はここに行けるっていうのを自信持って言える方、ちょっと手を挙げていただきたいなと思うんですけども、いかがでしょうか。（発言する者あり）ありがとうございます。

実は私も議員の立場だけじゃなくて、地域でいろいろと訓練とかさせてもらうんですけど、まだ子供もいて、いろいろと子供にも言って聞かせたりするんですけど、結局しっかり覚えれてなかったりとか、あと、風雪と水害とまた避難場所が違ったりとかっていうのが意外と大人でもしっかり整理できてないかなっていうのが現状だと思います。これは何か皆さんを責めるとかっていう、そういうことではなくて、やはりしっかりまとめるというか、昨日も言うたんです、いろんな施策があって、マップを配ったりとか、ここにこういう場合は逃げようとかっていう紙とかもたしかあったような気がするんですけど、じゃあ、それを皆さん、冷蔵庫に貼って家族に周知されてるんかっていうと、何かうちも貼ってないなってちょっと反省してるんですけど、意外とそういうところが大事かなとも思ったりするので、一生懸命になり過ぎちゃうんですけど、もうしっかりと確認できるような手だてっていうのももう一段、基本に立ち返ってじゃないですけど、全戸に周知できるような手段を考えていただければなというふうに思います。

もう１点なんですけど、いいですか、すみません。防災ＤＸっていう言葉があると思うんですけど、これは市民への、向けてのもの、取組なのか、それともこの行政側がそういった災害とかがあったときにスムーズに指揮系統がしっかり統治されるのかとかっていうことに向けてのものなのかっていうのが、ちょっと言葉がよく分かってないので、教えていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

○委員長（義本みどり）　松岡課長。

○危機管理課長（松岡　久雄）　今の防災ＤＸの話ですけども、両方の視点があるかなと思ってます。庁内での話はまだ分かりやすいかも分かりませんけど、例えば市民向けですと、近年周囲の市町では、やはり防災アプリ的なものが主流になっています。今、豊岡市では防災行政無線を中心に市民へ周知することになってますけども、例えば具体例で言いますと、福知山市さんでは、防災アプリを中心にしています。防災行政無線は、コストがかなりかかるということもあるのですが、住所を入力すると、例えばその裏山が一定の雨量などで崩れるとか、個別に合わせた情報まで伝達されるというようなすごくいい防災アプリを導入されています。それを豊岡ができるかどうかちょっと別の話なのですが、そういった対市民も含めた中での防災ＤＸをどのように、どう効果的に取り入れるかっていうことを考えていかなければならないかなと思っております。

○委員長（義本みどり）　北原委員。

○委員（北原　大策）　そのデジタルの活用っていうのはもちろんこれからは間違いなく進めていかないといけないと思うんですけど、すごく移行期的なところがあって、例えば私も５０ぐらいですけど、スマホ持ってます。ただ、実際に何か災害があったときにすぐにそのアプリというか、情報にアクセスできるのかとかっていうと、もうちょっと自信がなかったりするんですよね、ちょっと個人差はあると思うんですけど。例えば私より年配の方とか、かな

り上の方とか、高齢者とかが特に、ご家族と一緒におられたらいいんですけど、そうとも限らないじゃないですか。そういうときにデジタル一辺倒、アナログにしましょうっていうことではないんですけど、意外とやはり両建てっていうのが今必要な時期じゃないかなと思ってるので、例えばＤＸっていう言葉自体も、何じゃそりゃっていう方も結構いらっしゃるかなとは思うんで、もちろんそこを啓発というか、していくことも必要だとは思うんですけども、やはり弱者というか、情報弱者というか、そこにアプローチできない人のほうが多いんじゃないかなって私肌感覚で思うので、自分も含めてそこへの対策というか、アプローチをし続けていただきたいなと、マンパワーのこともあるとは思うんですけど、そこを取りこぼされないようにしていただきたいなと思ってます。以上です。

○委員長（義本みどり）　これで終わりでいいのかな。

○委員（北原　大策）　特に回答は求めません、よろしくお願いいたします。

○委員長（義本みどり）　原田部長。

○危機管理部長（原田　泰三）　今、北原委員がおっしゃられましたアナログ、デジタル両面でというようなことで、以前から出前講座の中にマイ避難カードを作ろうというメニューがありまして、防災リュックもそうなんですけど、やはりそういったことでいつ誰が誰をどこに連れていくのかというものを、それこそ冷蔵庫に貼っといていただく。私の母の場合は、戸牧の家族が迎えに来て、避難準備の段階で少し前に、警報が出たときまでではないんですけども、少し進んだ段階で連れていくとしています。そういったことが紙でもできますし、ひょうご防災ネットのアプリでもできますし、そういったことで両方見据えた取組を啓発していくようなことを出前講座なんかでしていきたいなと思ってます。とにかく自分の命をまず守っていただくのはどのタイミングなんだ、誰が助けに来てくれるんだっていうことしっかり決めといていただくということが大事だと思いますので、そういった対策をしたいと思います。

あと、米田委員が先ほどひょうご防災リーダーの関係を言っておられましたけど、あれは毎年ではなくて、阪神地区と但馬地区とか、例えば丹波地区と淡路地区とかいうことで、それが４年に１回ぐらい回ってくるというようなことです。いろんなカリキュラムが組まれていて、いろんな大学の教授の先生が来られたりとかいうことで、ちょっとそこのカリキュラムの組み方が分かんないんですけども、そういった少し時間のかかる養成講座になりますので、なかなか市単独でというようなことは難しいですので、兵庫県とか但馬県民局などが中心となって、そういったサポートしてくださったらいいのかなというような考え方でございます。以上です。

○委員長（義本みどり）　ほかございませんか。よろしいですか。

ないようですので、事務概要については、では、この程度でとどめておきたいと思います。

以上で当局職員の皆さんは退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩します。

午前１０時０２分休憩

午前１０時０４分再開

○委員長（義本みどり）　休憩前に引き続き会議を再開します。

議題は管外行政視察の研修についてです。

視察日程は、７月６日……（「７月」と呼ぶ者あり）６日でしたね、月曜日から１０日の金曜日まででたしか……。ごめんなさいね。今回は日帰りとし、７月８日水曜日の午後１時から３時で仮予約が事務局さんのほうでできております。７月８日水曜日に実施したいと考えております。

内容については、事務局から説明をお願いします。

舩越主幹。

○事務局主幹（舩越　初美）　簡単にご説明します。

資料、防災体験学習の表をご覧ください。今回の視察は体験学習を中心とした内容になっておりまして、時間はおおむね２時間を予定しています。

まず、３０分から１時間程度、体験学習ガイダン

スとして、施設の紹介や暮らしの中での防災、防火など、災害への備えのアドバイス、体験型学習の説明を受けます。その後、体験型学習に入りますが、施設の方からは、表にあります体験型学習・訓練と施設等見学の中から２つくらいを選んでいただくのが標準だと伺いましたので、正副委員長とご相談し、②の煙避難体験と⑤の簡易救出器具取扱体験を仮予約しています。

体験の内容は、表に記載のとおりですが、⑤の簡易救出器具取扱体験は瓦礫のある場所でジャッキなどを使う体験になりますので、施設の方からは汚れてもいい服を着てきてもらうか、持ってきてくださいと言われています。体験型学習の所要時間はそれぞれ３０分程度となっています。

説明は以上です。

○委員長（義本みどり）　ありがとうございます。

説明は終わりました。

質問等何かございませんか、ご意見も含めて。

暫時休憩します。

午前１０時０７分休憩

午前１０時１０分再開

○委員長（義本みどり）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

では、先ほど７月８日水曜日というところで管外視察研修について進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

次、協議事項の３番、その他ですが、昨年１１月に委員の皆様と協議、検討しました防災対策調査特別委員会重点調査事項について、２０２６年度分として変更はないでしょうか。よろしいでしょうか、このままで。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（義本みどり）　それでは、変更なしということで決定しました。

次に、次回の委員会で特に調査研究を進めたい事項があればご意見をいただければと思います。

暫時休憩します。

午前１０時１１分休憩

午前１０時１５分再開

○委員長（義本みどり）　休憩前に引き続き会議を再開いたします。

それでは、次の６月のこの委員会では、ゴム堰について学んではどうかというご意見がありましたので、その方向で調整をお願いいたします。

最後に、委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（義本みどり）　なし。

それでは、以上をもちまして本日の防災対策調査特別委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前１０時１６分閉会

２０２６年度

豊　岡　市　事　務　概　要

（重点事項）

（防災対策調査特別委員会所管分）

1　重点事項

担　当　部	担　当　課	項　　目	頁
危機管理部	危機管理課	防災対策の推進	3
都市整備部	建設課	雪害対策事業の推進	4
		円山川水系河川整備事業の推進	6

危機管理課

防災対策の推進

（現況と課題）

全国各地においては、台風、豪雨、地震、大規模な山火事等による災害が発生している。本市では、近年、大災害はないものの、毎年、自然の脅威に脅かされており、災害に備える準備が必要である。

災害から市民が命を守るためには、配布した防災マップ、津波ハザードマップで市民自らが地域の災害リスクを知り、早く安全に避難できるよう防災リュックなどの事前準備が重要となる。

能登半島地震では、物資や指定避難所でのトイレなど、様々な問題や課題が顕在化しており、本市においても、市民一人一人の課題意識の向上を図ることや中長期化する災害対応への市防災体制のあり方を研究する必要がある。

（基本方針）

市民が災害リスクを知り、避難行動を実施するためには、自分たちが住む地域で実施する防災訓練､防災出前講座､防災学習会などを実施することが効果的であり、地域の防災力の強化に繋がっていくと考えている。これらの取組を地区の災害リスクに応じて実施し、自助、共助の観点に対して市民一人一人の意識啓発の向上を図っていく。

また、市は、災害対応の中長期化を見込んだ受援体制、防災ＤＸの活用などの持続可能な市防災体制を再構築できるよう研究していく。

（概要）

１　市民の訓練
　台風第23号メモリアル水防訓練（６月）
　全国瞬時警報システムによる地震安全確保行動訓練（６月17日・11月５日）
　豊岡市市民総参加訓練「風水害」（８月30日）
　兵庫県津波一斉避難訓練（日本海沿岸地域地震）（11月５日）

２　地域防災力の向上
　防災ワークショップ（コミュニティ組織　２地区）
　防災出前講座（随時）　防災リュック(非常用持出袋)を考えるなど全７項目
　自主防災組織資機材整備補助（予算の範囲内）

３　防災啓発事業
　北但大震災メモリアル写真展（５月）
　台風第23号メモリアル事業「防災学習会」（10月）

４　市職員の災害対応の研究及び訓練
　防災支援室の設置（４月）
　大雨洪水対応訓練（５月30日）

建設課

雪害対策事業の推進

（現況と課題）

冬季における交通確保では、車道約 630 ㎞歩道約 115 ㎞の市道等を 192 台の車両により除雪作業を行っているが、除雪機械等の老朽化が進んでいく中で、受託者所有機械の更新が進まない状況であるとともに、作業員の高齢化により業者の確保が困難な状況になりつつある。

（基本方針）

冬季の交通確保については、計画的な除雪機械の更新を行うとともに、兵庫県と連帯し、国県市道の効率的な除雪方法等を検討することや、きめ細かな気象情報を提供することで、待機回数を減らし作業員への負担軽減を図ることで受託業者の確保を図り、老朽化した消雪施設については、計画的な更新を行ない、施設の適正化を行う。

また、地区で行う市道等の除雪作業に必要な除雪機購入においては、「豊岡市除雪機整備事業補助金」により購入経費の一部を補助し、共助による除雪にも注力する。

さらに、本市の除雪事業者に対して除雪機械運転に必要な資格取得の費用の一部を補助する制度を実施する。

（概要）

１　除雪対策

⑴　除雪機械の更新等　　C=20,450 千円

ア　除雪ドーザ　　４ｔ級の更新（城崎地域）１台

イ　ハンドガイド　1.1m級の更新（豊岡地域）１台

⑵　消雪施設の更新等　　C=58,900 千円

ア	竹野地区消雪ポンプ更新	Ｎ＝　３基	竹野町竹野地内
イ	竹野地区消雪ノズル修繕	Ｎ＝ 40 箇所	竹野町竹野地内
ウ	栗栖野・山田線消雪散水管更新	Ｌ＝ 12m	日高町栗栖野地内
エ	栗栖野・山田線消雪制御盤等更新	Ｎ＝　１箇所	日高町栗栖野地内
オ	小田井寿上陰線消雪散水管更新	Ｌ＝ 330m	寿町地内

⑶　補助金　C=15,000 千円

ア　豊岡市除雪機整備事業補助金　C=11,000 千円

対象者：自治会又は地域コミュニティ組織

補助率又は補助金等の額：１台につき対象経費の 2/3 以内、上限 150 万円

イ　除雪機械運転資格取得事業補助金　C=4,000 千円

対象者：本市に事業所を置く除雪事業者。ただし、本市内の除雪等作業に従事する予定の者に資格を取得させる場合に限る。（50 歳未満かつ普通自動車免許を所持している者）

補助対象経費：大型特殊免許および大型自動車運転免許の取得費用、車両系建設機械運転技能講習の受講費用

補助率又は補助金等の額：補助率 2/3、上限 400 千円/件

※補助金の半額は、県から支出金として市が受け入れる

実質の県及び市の補助率等は、県 1/3（上限 20 万円）、市 1/3（上限 20 万円）

建設課

円山川水系河川整備事業の推進

（現況と課題）

2013（H25）年度から「円山川水系河川整備計画」に基づき、河川整備事業が実施されている。

2026（R8）年度からは、「第１次国土強靭化実施中期計画」を踏まえた予算を活用し、早期完成に向けて整備を加速し進めているところである。

治水安全向上のため、国と県及び市が緊密な連携の基に、今後も住民の意見を尊重しながら、積極的な事業の推進を図ることが必要である。

（基本方針）

「円山川水系河川整備計画」では、観測史上最大の洪水である平成 16 年 10 月洪水（台風第 23 号）と同規模の洪水が発生した場合であっても、国管理区間の全川にわたり家屋等の浸水被害の軽減を図ることが可能となるような整備を行うものとしており、計画で示された実施内容の推進を図るため、国並びに関係機関との連携を一層強化し、用地買収の協力や地元調整に最大限の支援をしていく。

また、事業の早期完了を目指し、積極的に国や与党政党等への要望活動を行う。

（概要）

１　円山川水系河川整備計画

事業期間　平成 25 年度から概ね 20 年間

⑴　下流部無堤対策

ア　瀬戸・津居山地区･･･地元調整

イ　ひのそ他地区　　･･･地元調整

･･･特殊堤整備

･･･道路嵩上げ

･･･結和橋アプローチ橋復旧（下部工）

⑵　遊水地整備

ア　中郷地区　下池　･･･囲ぎょう堤

･･･遊水地内掘削

･･･樋門整備

イ　中郷地区　上池　･･･囲ぎょう堤

･･･遊水地内掘削

⑶　上流部無堤対策

ア　日置地区　　･･･堤防整備

･･･道路改良

イ　鶴岡地区　　・・・用地取得
　　・・・堤防整備
　　・・・樋門整備
ウ　日高地区　　・・・地元調整

⑷　堤防強化整備

大磯地区　　・・・堤防強化

2　要望活動

近畿直轄河川治水期成同盟会連合会で国交省、財務省に要望予定。

その他随時要望活動を実施する。